

教育者に求められる倫理の研究ー 「あなたのため」は誰のため？

教育実践科学コース 助教 坂本 達也

なぜ教育者に倫理が求められるのか

教育者は学習者の望まない働きかけをせざるを得ない場合がある。学習者の成長のために必要だと判断したならば、本人の意思に関係なく学習者に働きかけるだろう。たとえ学習者が望んでいないとしてもあえて関わろうとする姿勢は、一般的には避けるべきものとされよう。しかしこの「にも拘わらず関わっていく」姿勢は、教育においては避けることのできないものである。そのため、教育者には「にも拘わらず関わっていく」うえでの倫理が求められることになる。

—このような問いを、ケアリング論の観点から検討してきました。「あなたのため」という関わりは教育にとって不可欠である一方で、そのような関わり方はときに相手を窒息させてしまいます。ケアと呼ばれる関わり方がこのような矛盾をどのように克服しようとしているのかを手掛かりに、教育者に求められる倫理を検討しています。

手掛かりとしてきた文献



日本語で書かれている本を紹介します。これらの文献を基に研究を進めてきました。興味があれば是非。

主な研究業績

- ①坂本達也(2021)「『居間の教育』思想の現代的意義に関する研究ーN.ノディングズのケアリング論を手掛かりにー」『人間教育の探究』日本ペスタロッcher・フレーベル学会、第33号、1-23頁。
- ②坂本達也(2022)「パターンリズムとケアの倫理の相互補完の可能性ー自律の尊重を巡る議論を手掛かりにー」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要・教育学研究』第3号、396-404頁。

今後の課題

「あなたのため」という理由で関わろうとする際に目の前にいる「あなた」とはいったいどのようにして現れるものなのかを、アクターネットワーク理論の観点から問い直したいと考えています。